

## 現行計画・次期計画の比較

項 目	現 行 計 画	次 期 計 画							
1. 計画期間	平成 18 年度～平成 27 年度 (10 年間) ※ 平成 22 年度に中間見直しを行った。 【 見直し後の計画期間：平成 23 年度～27 年度 】	平成 28 年度～平成 37 年度 (10 年間) ※ 概ね 5 年後、又は社会経済情勢に大幅な変化が生じた場合は見直しを実施する。							
2. 基本方針	① 「もったいない」をキーワード ② 「3 R 運動」の推進	① 「2 R」の推進 ～ リデュース・リユースに重点 ～ ② 分別の徹底によるリサイクルの推進 ③ 相互理解の推進							
3. 主な取り組み内容	① レジ袋無料配布の中止 ② 店頭回収の推進 ③ 雑がみの分別・リサイクル ④ 学校給食のリサイクル	① 雑がみの分別徹底 ② 生ごみの 3 キリ運動 ～ 水切り・食材食べきり・使いきり ～ ③ 食品ロスの削減 ～ 飲食店・旅館等における食品廃棄物の削減 ～ ④ ワークショップの実施							
4. 目標設定 (評価及び方針)	<p>① ごみ排出量 (一人 1 日あたり) : 988<sup>g</sup></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 当該計画の目標は達成していない。</li> <li>▶ なお、平成 21 年度に当初計画の目標をクリアしたため、中間見直しにおいて、目標値を 988<sup>g</sup>に引き上げた経緯がある。</li> </ul> <p>② リサイクル率 : 17.0%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 目標値には達していない。</li> <li>▶ 平成 22 年度の中間見直しの際、目標値を見直した経過があるが、目標は達成できていない。</li> <li>▶ なお、リサイクル率は、ア)容器の軽量化 イ)ペットボトルへの移行等の影響もあり、市民の努力が反映され難くなっている側面もある。</li> </ul>	<p>① ごみ排出量 (一人 1 日あたり) : 970<sup>g</sup></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 平成 22 年度を基準として、生活系ごみを 20%、事業系ごみを 30%減量化することを目標とする。</li> <li>▶ また、ごみの資源化・最終処分量の削減の指標として、生活系ごみ・事業系ごみの一人 1 日あたりの排出量を設定するとともに、総リサイクル量の目標値を設定する。</li> </ul> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin: 10px 0;"> <tr> <td rowspan="3" style="width: 20%; text-align: center;">ごみ資源化・最終処分量の削減</td> <td style="width: 40%;">生活系ごみ排出量</td> <td style="width: 40%; text-align: center;">480<sup>g</sup></td> </tr> <tr> <td>事業系ごみ排出量</td> <td style="text-align: center;">200<sup>g</sup></td> </tr> <tr> <td>総リサイクル量</td> <td style="text-align: center;">13,000<sup>t</sup>以上</td> </tr> </table> <p>※ リサイクル率は、左記に記載したような事情もあり、数値は把握するが指標には用いないこととする。</p>	ごみ資源化・最終処分量の削減	生活系ごみ排出量	480 <sup>g</sup>	事業系ごみ排出量	200 <sup>g</sup>	総リサイクル量	13,000 <sup>t</sup> 以上
ごみ資源化・最終処分量の削減	生活系ごみ排出量	480 <sup>g</sup>							
	事業系ごみ排出量	200 <sup>g</sup>							
	総リサイクル量	13,000 <sup>t</sup> 以上							